**降誕節第４主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2024年1月21日**

**「神が清めたもの」**

**詩編34編9節**

**34:9 味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。**

**使徒言行録10章9～33節**

**10:9 翌日、この三人が旅をしてヤッファの町に近づいたころ、ペトロは祈るため屋上に上がった。昼の十二時ごろである。**

**10:10 彼は空腹を覚え、何か食べたいと思った。人々が食事の準備をしているうちに、ペトロは我を忘れたようになり、**

**10:11 天が開き、大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて、地上に下りて来るのを見た。**

**10:12 その中には、あらゆる獣、地を這うもの、空の鳥が入っていた。**

**10:13 そして、「ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい」と言う声がした。**

**10:14 しかし、ペトロは言った。「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は何一つ食べたことがありません。」**

**10:15 すると、また声が聞こえてきた。「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言ってはならない。」**

**10:16 こういうことが三度あり、その入れ物は急に天に引き上げられた。**

**10:17 ペトロが、今見た幻はいったい何だろうかと、ひとりで思案に暮れていると、コルネリウスから差し向けられた人々が、シモンの家を探し当てて門口に立ち、**

**10:18 声をかけて、「ペトロと呼ばれるシモンという方が、ここに泊まっておられますか」と尋ねた。**

**10:19 ペトロがなおも幻について考え込んでいると、“霊”がこう言った。「三人の者があなたを探しに来ている。**

**10:20 立って下に行き、ためらわないで一緒に出発しなさい。わたしがあの者たちをよこしたのだ。」**

**10:21 ペトロは、その人々のところへ降りて行って、「あなたがたが探しているのは、このわたしです。どうして、ここへ来られたのですか」と言った。**

**10:22 すると、彼らは言った。「百人隊長のコルネリウスは、正しい人で神を畏れ、すべてのユダヤ人に評判の良い人ですが、あなたを家に招いて話を聞くようにと、聖なる天使からお告げを受けたのです。」**

**10:23 それで、ペトロはその人たちを迎え入れ、泊まらせた。翌日、ペトロはそこをたち、彼らと出かけた。ヤッファの兄弟も何人か一緒に行った。**

**10:24 次の日、一行はカイサリアに到着した。コルネリウスは親類や親しい友人を呼び集めて待っていた。**

**10:25 ペトロが来ると、コルネリウスは迎えに出て、足もとにひれ伏して拝んだ。**

**10:26 ペトロは彼を起こして言った。「お立ちください。わたしもただの人間です。」**

**10:27 そして、話しながら家に入ってみると、大勢の人が集まっていたので、**

**10:28 彼らに言った。「あなたがたもご存じのとおり、ユダヤ人が外国人と交際したり、外国人を訪問したりすることは、律法で禁じられています。けれども、神はわたしに、どんな人をも清くない者とか、汚れている者とか言ってはならないと、お示しになりました。**

**10:29 それで、お招きを受けたとき、すぐ来たのです。お尋ねしますが、なぜ招いてくださったのですか。」**

**10:30 すると、コルネリウスが言った。「四日前の今ごろのことです。わたしが家で午後三時の祈りをしていますと、輝く服を着た人がわたしの前に立って、**

**10:31 言うのです。『コルネリウス、あなたの祈りは聞き入れられ、あなたの施しは神の前で覚えられた。**

**10:32 ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。その人は、海岸にある革なめし職人シモンの家に泊まっている。』**

**10:33 それで、早速あなたのところに人を送ったのです。よくおいでくださいました。今わたしたちは皆、主があなたにお命じになったことを残らず聞こうとして、神の前にいるのです。」**

**今朝皆さんはどのような思いを持って礼拝に来られたでしょうか。礼拝に行くのは習慣になっているので、改めて聞かれてもなんて答えていいのか返答に困るという方もおられるでしょう。あるいは礼拝に行くのが楽しみで楽しみで今日の礼拝が待ち遠しくて仕方がなかったそういう方もおられるでしょう。私たちは一週間の歩みの中で様々なことを経験します。嬉しいこと楽しいこともあれば、哀しいこと辛いこともあります。私たちはそれらのことを通して、色んな思いを持って教会へと礼拝へと神様によって招かれて集められ今ここに座っているのです。**

**東京神学大学には夏期伝道実習というものがあります。学部の4年生と大学院の1年生の時の夏休みに約1カ月間教会で実習をし、教会にお仕えするとはどういうことかを実際の学びを通して問われるのです。私は学部4年生の時に北海道の札幌市にある麻生教会で実習をさせて頂きました。初めての説教奉仕の前に当時の牧師の榮英彦先生、10年ほど前に天に召された先生ですが、その榮先生からこのように言われました。**

**「教会の礼拝には色々な人が来られます。もしかしたら今日初めて礼拝に来られて、その方が悩みを抱えておられて、「今日の礼拝の説教がわからなかったら命を絶とう」と思っている方がおられるかもしれません。だから毎回の礼拝でそのような方が来られるかもしれないと思って、その人に届くようなわかりやすい説教をしなさい。」**

**私は榮先生のこの言葉は決して忘れてはいけないと思っています。そして常に説教の準備の時、説教を語る時に気をつけています。私の力不足でそのような悩みを抱えた方の心に届くような説教ができていないかもしれませんが、教会の礼拝には御言葉への飢え渇きを覚え、魂の飢え渇きを覚えて今ここに座っておられる方がおられる、誰にも言えない悩みの中で苦しみ主の御言葉の慰めを求めて、やっとの思いで教会に礼拝に来て今ここに座っている方がおられることをしっかりと心に留めていくことが説教者として大切なことだと思います。**

**さて、前回私たちは祈りの人異邦人コルネリウスが午後3時に祈っていると、幻で天使が現われを見て「主よ、なんでしょうか」と祈りの応答をしたところ、「ペトロのもとに人を遣わして彼を家に招きなさい」と言われコルネリウスは神様を信頼して従ったというところを共に聞きました。**

**では、そんなことがあったとは知らないであろうペトロの方はどうなのかというのが今日私たちに与えられえた御言葉の所です。今日の所では神様はコルネリウスだけでなくペトロにも幻を見せて下さっていることが記されています。**

**昼の12時頃ペトロが祈っていると、非常に大きな布が四隅でつるされてペトロの前に降りてきたのです。その布の中にはあらゆる獣、地を這うもの、空の鳥が入っていました。そして「屠って食べなさい」の声が聞こえました。ペトロは言います「主よ、とんでもないことです。清くないもの、汚れたものは食べたことがありません。」神様は答えます。「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言ってはならない。」こういうことが一度ならず3度もあり大きな布は天に引き上げられたのです。**

**ペトロが今の幻について思案に暮れていると、コルネリウスから遣わされた者たちがペトロの元にやってきました。霊はさらに語ります「ためらわないで一緒に行きなさい。わたしがあの者たちをよこしたのだ。」ペトロは聖霊の言葉に従い、3人を迎え入れ、泊まらせました。そして翌日ペトロたちはコルネリウスの元に行きました。コルネリウスは親類や友人を呼び集めてペトロの到着を今か今かと待っていました。ペトロはコルネリウス達に語ります。「ユダヤ人が異邦人と交際したり訪問することは律法で禁じられている。しかし神様は私に幻を見せて下さり、どんな人をも清くないとか、汚れているとか言って交際を限定してはならないことを示して下さった。だから私はここに来たのです」と。**

**そしてコルネリウスは午後3時の祈りの時に自分が見た幻について語り、ペトロを招いた次第を語るのです。**

**私はここって面白いといいますか、神様の御業の素晴らしさに驚かされるのです。まず神様はコルネリウスに幻を見せます。コルネリウスはその幻に従ってペトロを自分の家に招いて、その招きに応えてくれたペトロに自分の幻を語ります。**

**ペトロはペトロで神様から清い動物も清くない動物一緒に大風呂敷に包まれてつるされた幻を見せられたのです。ペトロがコルネリウスの招きを受けて彼のもとに行ったのはこの幻があったからです。神様が自分に見せて下さった幻を通して神様が語りたいことに気づかされてコルネリウスの招きに答え、彼に自分の見た幻について語るのです。**

**カイサリアで見たコルネリウスの幻とヤッファで見たペトロの幻が今一つになるのです。お互い別々の場所で見た幻が今一つとなるのです。それはまるで点と点が線になるように全く関係がないと思われた別々の幻が神様によってなされた大きな恵みの御業であり、ペトロもコルネリウスもその神様の大きな恵みの御業を経験しているのです。共に味わっていると言っても良いと思います。**

**33節でコルネリウスはペトロにこのように語ります。**

**「それで、早速あなたのところに人を送ったのです。よくおいでくださいました。今わたしたちは皆、主があなたにお命じになったことを残らず聞こうとして、神の前にいるのです。」**

**コルネリウスたちがペトロを通して語られる神様の御言葉を全て聞く、一つ残らず、一言も聞き漏らさずに共に聞こうとしている真剣な姿です。心の底から御言葉に飢え渇き、御言葉が語られるのを今か今かと待ち、その御言葉を何としてでも聞き漏らすまいと御言葉を求める姿です。これはコルネリウスたちだけでなくペトロもまた神様の前に共に御言葉を聞こうと共に真剣に求めているのです。今共に神の前に座って御言葉を味わおうとしているのです。もちろんそこにはユダヤ人も異邦人もありません。どのような人も神様が清めたものとして共に招かれて、今神様の前に御言葉を求めているのです。**

**それはまさに今日の旧約聖書の御言葉**

**「味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。」**

**この言葉です。今まさに共に御言葉を聞き味わおうと共に神様の前に身を寄せ合っているペトロやコルネリウスたちの姿です。誰もが神様に招かれた者として共に語られる御言葉を一言も聞き漏らさずに、じっくりと味わうのです。主の恵み深さを共にじっくりと味わい、その味を噛み締めていくのです。**

**そしてそれはまさに私たちの姿です。教会の姿です。私たちが教会でなされる礼拝の姿です。イエス様の十字架の贖いによって清められた私たちが共に神様に招かれて今ここにいるのです。「味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。」今私たちは教会の礼拝に招かれて共に身を寄せています。共に御言葉を味わっているのです。共に主の恵み深さを味わっているのです。**

**これは私が何度も経験したことですが、恐らく皆さんも同じ経験をされていると思うのです。一週間の歩みの中で大変つらく苦しい出来事があります。一人で祈っても聖書を読んでも御言葉への飢え渇きはおさまらないのです。早く日曜日が来てほしい、早く礼拝に行きたいと切に望みます。ようやく日曜日が来ます。悩み苦しみの中で体は辛いのですが、なんとしてでも礼拝に行きたいので何とかして礼拝に行きます。教会に入り、教会の皆さんと挨拶をする、何かそれだけで気持ちが少し楽になります。「元気？」と声を掛けられるだけで涙が溢れそうになります。礼拝堂の椅子に座る。礼拝が始まるのが待ち遠しくて仕方がありません。時間になり教会の皆さんと共に讃美歌を歌い、読まれる聖書を聞き、共に祈りを合わせます。いよいよ説教が始まります。牧師には何も話していないので牧師は自分の苦しみは知りません。けれどもまるでこの私の苦しみ悩みを知っているかのように、わたしに語りかけるかのように話をしてくれるのです。まるで乾いた土が水を吸収するかのように、御言葉の恵みがじわーっと体の隅々にまで染みこんでくるのです。イエス様の十字架と復活の愛と赦しによって、こんな私でも愛されていて生かされている恵みをじっくりと味わうのです。気づいたら涙が出ています。悩みは解決したわけではないけど、こんな私が生きていていいんだ、よしもう少し頑張って生きてみようと生きる力が与えられるのです。そして礼拝後に教会の方々と話すことでより恵みをいただくのです。そして礼拝でまた教会で与えられた恵みを携えて教会からそれぞれの場へと遣わされていき、なすべきことをなして日々御言葉に聞き祈りつつ愛の業に励んでいくのです。**

**これが教会での礼拝の恵みであり、共に御言葉を味わう恵みなのです。この恵みに私たちは招かれている、主に愛されて招かれている。それは大きな喜びです。「味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。」これからも共に主の恵み深さをじっくりと味わっていきましょう。**